

東洋史籍講読2-Ⅳ

科目ナンバリング HAA-404
選択必修 2単位

楯身 智志

1. 授業の概要(ねらい)

前近代中国の正式な歴史書(正史)は、いずれも「紀伝体」という方法で編纂されている。「紀伝体」とは、王者・皇帝の年代記(紀)と人物の伝記(伝)を中心に歴史を記録する方法のことである。つまり、中国の歴史とは、戦争や反乱・災害などの「モノゴト」よりも、王や皇帝・政治家・将軍・商人などの「ヒト」に焦点を当て、記録されていたことになる。歴史書という難しい印象を受けるが、人物の伝記は比較的読みやすい。小説感覚で気楽に読むこともできる。本講義では、中国古代の正史である『三国志』の伝を読み、偉大な業績を挙げた人物の半生を復元するとともに、歴史資料に付された注釈の使い方を学習する。

本講義では主に現代語訳を用いて中国正史の特徴をつかむことを目的とする。具体的には、まずは教員主導で「三国志」の描く三国時代の歴史を概括した上で、伝記の読解方法をレクチャーする。その上で受講者に自分の担当する伝記を選んでもらう。受講者は伝記の内容をレジュメやパワーポイントにまとめ、発表する。発表の仕方は基本的に自由であるが、担当する人物の魅力や注釈書の役割が伝わるよう、各自工夫してもらう。担当ではない者も発表に対する疑問・感想などを積極的に発言し、議論に参加する。

2. 授業の到達目標

- ・「紀伝体」で編纂された中国正史の特徴と注釈の役割を理解する
- ・中国古代の著名な人物の半生を自分なりに整理・分析できる
- ・歴史上の人物の業績を他人に分かりやすくプレゼンできる

3. 成績評価の方法および基準

- ・平常点(発表内容・授業中の発言など)50%
- ・レポート(発表内容をまとめたもの)50%

4. 教科書・参考文献

参考文献

今鷹真ほか訳 正史三国志 筑摩書房

5. 準備学修の内容

・自身が担当するか否かにかかわらず、発表で取り上げられる人物について基本的な情報を把握しておくこと。発表者だけでなく、視聴者側にも基礎的な知識がなければ、議論が成り立たない。議論が活発化するように、各自努力すること。

6. その他履修上の注意事項

- ・未知の物事について自ら積極的に調べる姿勢を身につけられるよう努力すること
- ・授業中は分からないことや疑問に思ったことを積極的に質問すること

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス *オンライン
- 【第2回】 『三国志』が描く時代
- 【第3回】 担当決め+董卓伝を読む1
- 【第4回】 董卓伝を読む2
- 【第5回】 受講者による発表(一週目)1
- 【第6回】 受講者による発表(一週目)2
- 【第7回】 受講者による発表(一週目)3
- 【第8回】 受講者による発表(一週目)4
- 【第9回】 受講者による発表(一週目)5
- 【第10回】 受講者による発表(二週目)1
- 【第11回】 受講者による発表(二週目)2
- 【第12回】 受講者による発表(二週目)3
- 【第13回】 受講者による発表(二週目)4
- 【第14回】 受講者による発表(二週目)5
- 【第15回】 総括 *オンライン